

サッカースタジアム建設推進会議 議事録

- 1 日 時 令和3年1月25日(月) 15:00～15:35
- 2 場 所 JMSアステールプラザ 多目的スタジオ
- 3 出席者 松井市長、湯崎知事、池田会頭、久保会長、古田会長
- 4 内 容 説明資料 : サッカースタジアム等整備の取組状況等について
説明資料別紙: 中央公園広場エリア等整備・管理運営事業 公募設置等指針(素案)
の概要
参考資料① : 中央公園広場 4者が期待する整備の方向性
参考資料② : サッカースタジアム建設 企業寄附募集

(松井市長)

本日はお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。

はじめに、今後のサッカースタジアムの具体的な設計等のステージに入っていくに当たりまして、国際試合やアマチュア利用の観点から、広島県サッカー協会の御意見をいただくことといたしました。この度の会議からオブザーバーとして古田会長に参加していただくことにしたいと思いますが、皆様、いかがでしょうか。

(異議なし)

(松井市長)

御理解いただきましてありがとうございます。それでは、古田会長から、一言お願いいたします。

(古田会長)

紹介いただきました古田でございます。よろしくお願いたします。広島県のサッカー協会の代表ということと、日本サッカー協会の一員ということで素晴らしいサッカースタジアムの建設に向け、微力ではございますができる限りの協力をさせていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

(松井市長)

ありがとうございました。

さて、サッカースタジアムの建設につきましては、本市における9月議会でスタジアムの設計・施工に係る債務負担行為の補正予算につきまして議決を得まして、10月下旬から次のステージ、事業者の公募をはじめたところであります。

基本計画の事業スケジュールに沿いまして、着実に取組を進めているという認識ではありませんが、今日は、直近の取組状況を皆さんと共有した上で、今後の作業を進めていく上で進め方に関して現時点における御意見や留意事項がないかしっかりと確認するため、意見交換を行いたいと思っております。

それでは事務局の方から資料の説明をお願いします。

(広島市池田部長)

広島市スタジアム建設部長の池田です。

それでは、お手元の資料に基づき説明させていただきます。

A 3 横の資料「サッカースタジアム等整備の取組状況等について」を御覧ください。

1 の令和 2 年度の取組についてです。

(1)のサッカースタジアム等整備（DB 事業）ですが、本年度 9 月市議会において、事業費に係る債務負担行為の設定に関する補正予算の可決を経て、10 月 22 日から、事業者の公募を開始しております。

また、12 月 1 日には、公募の参加事業者に本事業に関する理解を深めていただくため、事業者との競争的対話を実施しています。

この中で、本日の参考資料としてお手元に配布しております「4 者が期待する整備の方向性」の素案を事業者にお示しし、提案書作成に当たって、本資料の内容に配慮すること、また、市外、県外からどの程度の集客を見込めるかを提案内容に盛り込むことを指示しています。

今後は、2 月 15 日から 16 日に参加事業者からの提案書を受け付けた後、3 月 30 日に大学教授等専門家で構成する事業者選定審議会を開催し、提案書を審議・評価の上、優先交渉権者を選定する予定としております。

次に、(2)の広場エリア整備（P-PFI 事業）ですが、事業者の公募開始に向け、公募資料となる公募設置等指針の素案を作成したところです。

この素案については、別紙により概要をまとめております。A 4 縦のカラー資料を御覧ください。

広場エリア整備については、Park-PFI 制度を活用することとしています。まず、Park-PFI 制度について御説明させていただきます。

Park-PFI 制度は、公募により選定された事業者が、売店、レストラン等の公園施設を設置するとともに、その施設から生ずる収益を活用してその周辺の園路、広場等の一般の公園施設の設置・改修などを行う手法です。これにより、公園管理者の財政負担を軽減しつつ、都市公園の質の向上、公園利用者の利便の向上を図るものです。

まず、1 の事業の目的ですが、本事業はサッカースタジアム等整備事業と Park-PFI 事業による効果的なにぎわい機能により、年間を通じて子供から大人まで幅広い世代の県民・市民、さらには観光客が楽しめる都会のオアシスとなる新たなにぎわいを創出することを目的としています。

次に、2 の Park-PFI 事業の概要ですが、右上のイメージ図を御覧ください。Park-PFI 事業の区域は、赤の点線の枠で囲まれている広場エリアと基町環境護岸の区域となります。

次に、(1)の公募対象公園施設ですが、本川に面した中央公園広場の豊かな水と緑の立地環境を活かした飲食・物販・サービス等のにぎわい施設の整備及び管理運営により、「年間を通じて子どもから大人まで幅広い世代の県民や市民、近県の方々、国内外の観光客が楽しめる空間づくり」が実現できるよう事業者からの提案を求めます。

次に、(2)の特定公園施設ですが、来園者が快適にくつろげ、多様なイベント等に活用できる園路・広場、屋外トイレ、案内板、植栽等の公園施設について提案を求めます。

次に、(3)の魅力向上業務ですが、にぎわい創出のため、広場エリアでイベント等を行うなど、スタジアムと広場エリア及び中央公園全体のエリアマネジメントを行うこととしています。

次に、(4)の利用目標ですが、飲食・物販等の施設利用及びイベント等の集客により年間 166 万人以上の利用目標を設定することとしており、サッカースタジアムの年間集客目標 54 万人と合わせ、年間 220 万人以上の集客を目指します。

以上が公募設置等指針の素案の概要です。

すいませんが A 3 の資料にお戻りください。

広場エリア整備の本年度中の今後の取組としては、3 月 31 日に事業者選定審議会を開催し、

御説明しました公募設置等指針などを審議の上、決定する予定としています。

次に、2の令和3年度以降の取組についてです。

(1)のサッカースタジアム等整備（DB事業）ですが、令和3年4月に、選定した優先交渉権者と仮契約を締結した後、市の6月議会において契約締結議案を提案することとしています。

契約締結議案の可決後、本契約を締結し、7月以降、基本・実施設計等に着手する予定です。

令和4年度から6年度は、建設工事に取り組み、開業というスケジュールとなっています。

(2)の広場エリア整備（Park-PFI事業）ですが、令和3年度に事業者選定の上、実施協定を締結し、令和4年度から6年度については、順次、設計、建設工事に取り組み、開業というスケジュールとなっています。

次に、3の全体スケジュールについてです。

1と2で御説明した内容を表にしたものですので、重複する部分の説明は省略しますが、上のDB事業については、現在実施している公募において、スタジアムとペDESTリアンデッキは5年度末までに引渡しを受ける予定としております。

また、Park-PFI事業については、吹き出しにあるとおり、スタジアムと広場エリアが一体的に機能する空間となるよう、DB事業者とPark-PFI事業者の間で、設計内容等について随時調整を行いながら、事業推進することとしています。

令和2年度及び令和3年度の取組と全体スケジュールの説明は以上となります。市長お願いします。

(松井市長)

はい、どうもありがとうございます。本年度の取組状況、全体スケジュールの説明がありました。

説明がありましたとおり、現在進めている取組は、基本計画で合意している令和6年開業を目指す事業スケジュール、そういったものを前提として推進しているところですが、いま御説明がありましたとおり、この事業はサッカースタジアムそのものの建設と広場の整備、これを一体的にやるということ、最終目標に向けて市民県民の意見も取り入れながらいいものにしていくために、目標値、利用目標などを、例えば年間220万は集客することを目指すとかですね、広場の方には年間166万人以上きていただくようにし、スタジアムの集客は54万人、こういった具体的な目標を設定して、それに沿ったアイデアを民間から募る中でこの取組を確実にやっていこうということ。そしてそれに係る財源は、資料にありますように、全体で270億9,900万、約271億かかるんですけども、全体事業費から国庫の補助金、寄附金、使用料収入等を償還財源とする市債、こういったものをまず差し引きまして、足りないところを広島市と県で協力して資金確保するといったフレームワークで進めているところがあります。

このスケジュールについて、改めて皆さんの思いをお聞かせいただきたいと思います。

まず久保会長いかがでしょうか。

(久保会長)

はい。先月中旬に、サンフレッチェのホームページをリニューアルいたしまして、私たちが思い描くスタジアムパークの完成イメージパースと動画を公開したところ、色々なメディアから好意的にとりあげていただきました。

ファンやサポーターの皆さんはもちろん、多くの県民、市民の方々から、完成がとても楽しみだという声を聞いておりますし、建設されたら絶対に行ってみたいというような、ポジティブな御意見を直接いただき、新スタジアムへの期待の高まりを実感しているところであります。

先月実施したサンフレッチェのクラウドファンディングでは、広島県民を中心に全国から目標8,000万円に対して3,697人の方から8800万円が寄せられました。新スタジアムを心待ちにしている沢山の方々の期待であるとか、厳しい経営環境の中でありませうけれど、サンフレッチェ広島を支えたい方々の思いが伝わりまして、私自身、胸が熱くなるとともに、何としてもその期待に応えなければならないと、今、強く思っているところであります。

サンフレッチェといたしましては、こうした沢山の皆さんの大きな期待にお応えするために、2024年のJリーグ開幕戦がスタジアムパークで開催できるよう、当初の事業スケジュールを確実に実行していただきたいと思ひます。色々な面でしっかりと協力させていただきたいと思ひます。

(松井市長)

ありがとうございます。続いて、古田会長いかがでしょうか。

(古田会長)

広島県内でサッカーをやっている選手、指導者、審判が約2万人強いらっしやいます。その御家族等を合わせると5万人以上の方々がサッカーに関わっている。その皆さんが新しいサッカースタジアムがスケジュールどおり2024年に開業されることを心待ちにされていると思ひます。是非スケジュールどおりやっていただきたい。それと、2024年は広島県サッカー協会の創立100周年という記念すべき年となっています。それに合わせて新しいスタジアムでの日本代表戦を含む様々なイベントを考えているので御期待いただければと思ひます。

(松井市長)

はい、ありがとうございました。それでは続いて池田会頭いかがでしょうか。よろしくお願ひします。

(池田会頭)

思い起こせば2013年にサッカースタジアム検討協議会が設置されて8年経ったわけですね。そういうわけで市民県民ファンの方、待っておられたわけですね。まずは令和6年開業に向けて、スケジュールどおりスピード感を持って進めていただき、市民、県民、観光客、そういった人々が多く集い、賑わう街なかスタジアムを実現していただきたいと思ひしております。

経済界としましては、経済環境を見据えながら息の長い活動になると思ひますが、既にスタジアム建設に向けた経済界の協力というものも仰いでおりますので、これは着実に進めてまいりたいと思ひしております。

また、全体スケジュールの右上にも書いてありますけれど、やはりスタジアムと広場エリアの連携はもちろんのことでございますけれど、旧市民球場跡地を含め、それぞれ主体となる事業者さんを広島市がしっかりとグリップしていただいて、親和性というものを保ちながら、中央公園全体の開発、周辺地域を含めた空間づくりが一体感をもって進んでいけるよう、是非とも取り組んでいただきたいと思ひしております。以上でございます。

(松井市長)

ありがとうございました。それでは続いて湯崎知事いかがでしょうか。

(湯崎知事)

広島の新しいシンボルにこのサッカースタジアムはなるわけですがけれども、全国的にも珍しい街なかスタジアムになるわけですね。広島都心部の活性化を促すため起爆剤となるような象徴的な取組であると思っております。

広島都心部の発展が県全体活性化に繋っていくものであり、そのようにしなければならないと思っておりますし、しっかりと取組を進めていかなければならないと思っております。

県としても、基本計画にある通り、令和6年の開業を目指す事業スケジュールに向けて最大限努力すべきだと考えているところであります。

今後は、選定審議会、広島市が設置されている審議会でありますけれども、選定審議会での結果を踏まえて最終的には市長が事業者を決定するという手順だと承知しておりますが、県内外からの集客や、県全体の活性化が実現される案を御採用いただきまして、県全体への効果を御説明いただけるようお願いしたいと思っております。

(松井市長)

ありがとうございました。今、関係者それぞれですね、このスタジアム建設、そして中央公園全体というお話もありましたけれど、一体的な運営を目指してやるということが市県全般に好影響を及ぼすというものであるということであり、基本計画どおり最大限努力をするという県の御意向もいただきました。皆、努力していくべき課題だという共通認識が図れたのではないかと思います。

続きまして、それをやっていく上で、実際資金の調達といったものも具体的な課題としてあがってまいります。これについて、久保会長あるいは池田会頭の御協力もありまして、目標に向けて着実な資金確保が進んでいるというようなことであります。そういった中で、市としてもそれを前提に予算化すべく議会に説明をできておりますし、これからもやっていくというような中でありますけれども、そんな中で、資金面に関してのそれぞれの取組というのを少し御紹介いただきたいと思っておりますので、今御発言いただいた順で少し状況なりコメントをいただきければと思っておりますがいかがでしょうか。久保会長。

(久保会長)

はい。資金調達のことで、エディオンの寄附の実施状況を御説明したいと思います。当社は、30億円をサッカースタジアム建設に寄附させていただくことを表明し寄附を実施しております。本年度末の寄付金の累計は12億円になる予定でございます。昨年の12月までに10億5,000万円ほど完了しております。

また、来年度については、本年と同額の6億円を予算に計上することを考えております。

サッカースタジアム建設の個人から広島市への寄附総額は、昨年末で2億7,900万円と当初の目標1億円の3倍近い額に達しておりまして、県民・市民の大きな期待の表れだと思っております。

サッカースタジアムの建設は、広島県全体の活性化に大きく貢献するというふうに思っております。県・市・商工会議所と一致団結して、年間を通じて賑わいのある、また、魅力あるスタジアムパークを確実に実現していきたいと考えています。以上です。

(松井市長)

ありがとうございました。実はですね、元々事務方で作ってくれた議事進行では資金について事務方が説明して皆さんの意見を伺うという予定だったんですけど、資金繰りの仕組みは

皆様御存知だと思いますので、まず御意見を伺って事務局説明はその後でという形で進めたいと思います。それでは池田会頭をお願いします。

(池田会頭)

はい。地元経済界としては、総額10億円の目標を立てまして、広島商工会議所が申込窓口となり、中国経済連合会、広島経済同友会、広島県経営者協会、また、県内の商工会議所連合会、こういった団体が連携して、昨年秋、具体的には10月以降活動を始めております。

また、お手元に配付しております企業寄附募集のカラーリーフレットは、広島市と協力しまして、整備計画の概要とか税制上の取り扱いについて分かりやすく説明したものでございます。

このリーフレットは、1月20日に広島商工会議所が発送しました会報誌に合わせまして、全会員、9,000あまりでございますけれども、そちらへ配付をしたところであります。また、1月22日には経済4団体のトップにお集まりいただき、寄附金募集の進捗状況について情報の共有化を図り、引き続き募金活動をしていこうという形で共通認識をしたものでございます。

この会議で皆さんから寄せられた意見を少し御紹介させていただきますと、広島市民だけでなく広島県民、国内外からの観光客など多くの人が訪れたいくなるようなまち、また楽しくなるような賑わいのあるまちにするために、常に何かをやっているスタジアムにする必要があるのではないかと。そうすることが大事なのではないかと。また、これから広くスタジアム整備の重要性を理解していただくために、県民市民、色々なところに積極的にアピールをしていかなければいけないのではないかと、というような御意見もありました。加えてですね、スタジアム建設の気運の高まりのために、まずはサンフレッチェ広島が強くなければいけないという意見もありました。これは久保会長によろしくお願ひしたいと思ひます。

現在までの寄附金の募集状況でございますけれども、広島商工会議所の議員企業さんをはじめとする、多くの企業の皆様方からの温かい御支援・御協力を賜り、我々が作り出した10億円という目標に対しまして、大変良い感触を得ている状況でございます。

今月末からは少しずつ行動の範囲を広げていこうということで、広島市外の県内の企業を訪問しながら、企業版ふるさと納税制度の活用をお願いしながら、寄附の依頼を行い、全県でスタジアム整備の機運を盛り上げていこうという考えでございます。以上でございます。

(松井市長)

ありがとうございました。それでは知事、コメントをお願いします。

(湯崎知事)

資金調達は、基本計画にありますとおり、引き続き関係者で協力して調達していくというのが大変重要だと考えているところであります。

経済界におきましては、御説明があったように、エディオンさん、マツダさんに加えて、池田会頭を先頭に商工会議所から広く県内企業に寄附を呼びかけていただいているところでありまして、既に広島銀行さんをはじめ、大きな額の寄附を表明していただいていることに対して、これは本当に感謝を申し上げたいと思ひます。市もそれに御協力されていると、そういうことを含めて感謝を申し上げたいと思ひます。

県としても、基本計画に基づいて、これはもちろん県議会の承認を得た上ではありますが、応分の負担をするという考えでございます。その前提ではありますが、これまで何度か申し上げてきているとは思ひのですが、県の費用負担につきましては、具体的なこのスタジアムの姿、

これは公園部分も含まれてきますけれど、これを描く中で議論していくことが必要であると認識しておりまして、現時点では、県民の皆様や県議会に対して、これですと示しできる実現可能な具体案がまだできておりませんので、費用負担について具体的などころについてはまだ判断できないという状況であります。そういう意味で県の令和3年度当初予算案への計上というのは難しいかなと考えています。

この機会に、これまでの経緯と県の費用負担についての考え方について、若干長くなりますが、丁寧に御説明をする必要があると思うのでお時間をいただきたいと思います。

本事業の進め方につきましては、これまで一貫して、民間のアイデアも入れて、具体的な絵姿を描くということがまず必要ではないかと申し上げてきました。それは具体的な案を県民の皆様にもお示ししながら、これは県議会も含めてですが、具体的な議論をしっかりとっていく過程が非常に大事だということでもあります。そうしたしっかりとした議論を経た上で、事業者選定のステージに進むべきではないかと考えていたところです。県の費用負担についても、そういった具体的な姿を描く中で議論していくことが必要でありまして、その上で、県議会を含めて、県民に歓迎していただけるような中身にしながら、費用負担も考えていきたいという旨をこれまで申し上げてきたところであります。

これは短く言いますと、まず、先に、民間の知恵も取り入れながら、できるだけ具体的な絵姿を作りましょう。その上で、建設する事業者を決めましょう、ということをお願いしてきたわけですが、他方で、これは広島市の施設として整備されるということから、広島市からは、絵姿は事業者にも提案してもらいましょう。先に事業者を選定した上で、その後で具体的な内容を決めましょう、という手順であるDB方式が提案されたところでございます。

そこで、県といたしましては、事業主体である広島市の意向を尊重して、DB方式の採用を了解したということでございます。結果として、そういう手順となったものですから、具体的な絵姿というものは事業者の選定を待たなければならなくなったということがあります。

したがって、県民の皆様や県議会に対して御説明できるような、実現可能な具体案というのはまだできていないことになってまいりますので、県の費用負担を決定する判断をするには難しいということがありまして、先ほど申し上げたとおり、来年度当初予算への計上というのは県の場合は難しいと考えているところであります。

県の費用負担を決めるに当たりましては、県民の皆様や県議会に対して説明できるように、実現可能な具体案を、広島市の審議会を経てというプロセスがありますので、そのプロセスの中で決定をされる広島市からお示しいただいて御説明をいただく必要が出てまいりますので、そこをお願いしたいと考えております。

最後に、市は予算案を提出されるということで、これについては市の御努力を多とするところでございます。その中で、現時点においては、県の負担割合やその額は合意されていないということと、県の負担及びその額については、最終的には県議会の議決を経て決定されるものであるということを改めて申し上げさせていただきたいと思っております。

私としては、県議会と丁寧に対話をいたしまして、着実に手順を踏んで進めてまいりたいと考えておりますので、この点を大変恐縮ではございますが理解いただければありがたいと思っております。以上です。

(松井市長)

ありがとうございました。資金の方に関しましては、久保会長、池田会頭それぞれの立場でスケジュールを踏まえながら可能な限りの対応をやっていただいて、実現の方向で動いていただいているということ、県の方は、議会の理解を得る手順をしっかりと踏んで対応していくと、

そしてスケジュールを最大限尊重しながらやっていこうと、応分の負担をするという考えでやっていこうというような御説明がありました。そんな中で、市、事業実施主体として非常に責任が重いというような意識に至っております。当然、市の方も、私がこういうところで敢えて申し上げますけれども、市議会の了解がなければ進められないわけですし、私自身も市議会の了解を得るべく努力をいたしまして、皆さんの御期待に必ず応えるという方向でやっていく覚悟しております。

今ありました、資金の調達とか事業の方向、今言った皆様方の意見を踏まえたことをやっているという状況を最後に説明いただいて事務方の締めとしたいと思います。お願いします。

(広島市池田部長)

それでは、A3資料により説明させていただきます。A3資料の右下にあります、4の全体事業費及び財源内訳についてです。

本事業の全体事業費は、サッカースタジアム等整備、広場エリア整備、埋蔵文化財発掘調査等の事業費の総計として、270億9,900万円を見込んでおり、その表に示すとおりです。

この事業費に係る財源については、基本計画に示している資金調達の考え方にに基づき、全体事業費から、国庫補助金、寄附金、使用料収入等を償還財源とする市債等の見込額を差し引き、なお不足する部分については広島市及び広島県が協力して資金確保を図ることとしています。

現時点での財源内訳は、表の下に示しているとおり、国庫補助金が約80億円、寄附金が

63億円、使用料収入等を償還財源とする市債が約27億円、P-PFI事業における民間事業者負担額が3,000万円、残りが自治体負担分として約100億円と見込んでいます。

続きまして、令和3年度予算の概要について、資料は特にありませんので、口頭で説明させていただきます。

令和3年度の事業としては、サッカースタジアム等整備事業者と契約の上、基本・実施設計を行うこと、既存施設の移設等に着手すること、広場エリア整備のP-PFI事業者の公募を実施すること、サッカースタジアム等整備事業者と発注者である本市との間の各種調整を行うコンストラクション・マネジメント業務を委託すること、本年度から実施している埋蔵文化財発掘調査を引き続き実施することを予定しています。

また、国の第3次補正予算を積極的に活用することで、国庫補助金を確保していきたいと考え、先ほど御説明した3年度予定事業の一部の経費を本年度2月補正予算により計上する予定としております。

現在、予算編成作業中のため、詳細な予算額についてはお伝えすることができませんが、本年度2月補正及び来年度当初予算を合わせて、約60億円を計上することを予定しています。

以上で説明を終わります。

(市長)

はい。どうもありがとうございます。

今、事務方が説明いたしましたように、予算措置、財源確保をするということで、私自身は市議会対応をしっかりやってまいります。知事の方は県議会対応やっていただけたということですので、そういった取り組みを皆さんが引き続きしっかりいただくということで、スケジュールに沿った対応をこれからもやっていきたいと思っておりますので引き続きどうぞよろしくお願いいたします。時間が早いですが、それでは、以上を持ちまして本日の会議は終了いたします。ありがとうございました。

(以上)